

HIROSHIMA UNIVERSITY BioMed News

Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences

目次

Preface 巻頭言

「成果を中心とする実績状況に基づく配分」……丸山 博文 1

Greetings ご挨拶

「広島大学よりワールドクラスのプロジェクトを」…藤本 淳也 2

「就任のご挨拶」……花本 博 2

「就任のご挨拶：臨床から疫学への道」……福岡 真悟 3

「就任のご挨拶」……長瀬 健一 3

「就任のご挨拶」……恒松美輪子 4

「就任のご挨拶」……柘植 雅貴 4

My motto 座右の銘

「Seeing is believing. 百聞は一見にしかず」……酒井 規雄 5

「何が嬉しいのですか？」……村山 長 5

Research Frontline 研究最前線

「見えないものを見えるようにする」……浦邊 幸夫 6

「肺癌治療における肺切除量縮小の追求」……岡田 守人 7

Air Mail 広大から海外へ留学している若手からの便り

「米国スタンフォード大学留学便り」……今岡 祐輝 8

編集後記……岩本 博志 8

成果を中心とする実績状況に基づく配分

大学院医系科学研究科長 丸山 博文



令和6年度国立大学法人運営費交付金の「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の結果が示されました。この制度により、予算獲得において国立大学は競争状態にあります。（こういった報告書作成などの事務作業の増加が、我が国の国際競争力低下の一因であるとの議論はとりあえずおいておきます。）

本学は、北海道・千葉・東京農工・金沢・神戸・岡山の各大学とグループ⑤を形成していますが、7大学中の評価が1位となり、26億円の配分基礎額に対し、3.4億円増額されます。越智学長は会議の席上で、「質の高い研究論文の執筆や教育改革に対する教職員の取り組みの成果である」と謝意を述べ、財務担当理事からも、2月15日に感謝のメッセージが寄せられました。本学への配分については、令和元年度の制度導入から令和4年度まで減額が続いていましたが、令和5年度からプラスに転じています。（私が研究科長就任直後、制度がよく理解できていないときに、財務担当理事との話し合いの席上で、マイナス2.9億円であるとの説明に衝撃を受け、研究科長ヒアリングで全ての教室にお話ししたことを思い出します。）

今回、項目別では研究、特に「運営費交付金等コスト当たりTOP10%論文数」について高評価（1.2億円増額）となっています。一方、「博士号授与の状況」および「常勤教員当たり科研費獲得額・件数」は最下位（それぞれ3,590万円、2,990万円減額）です。卒業・修了後の就職などの状況については、指導教員から呼びかけをいただいておりますが、未だ標準偏差を下回っています。本研究科は多くの項目でまずまずの状況にありますが、一層の改善を図り、全学を牽引するよう要請されています。このため、研究科としては、引き続き広大霞LabSecretaryの充実、研究環境の整備に努めていきます。なお、今回の増額は単年度限りであるため、学生の教育環境の向上に活用される予定です。本制度は今後も継続されますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

霞キャンパスでは研究棟Aの北側で、放射線影響研究所移転に向けた工事が開始されました。2月21日に広島地元連絡協議会が開催され、移転についても協議されています。新施設は10階建てで、1階が本学と共用、2～10階を放射線影響研究所が利用する予定です。2025年度に竣工予定ですが、「コミュニケーションスペース」も各階に設けられるとのこと。放射線影響研究所は、膨大なサンプルおよびノウハウの蓄積があり、本研究科・原爆放射線医科学研究所との共同研究の進展を期待しています。

最後に、大学から研究倫理や遺伝子組み換え・動物実験・RI取扱いなどの各種研修の案内が電子メールで送信されています。本研究科の受講率は他に比べ低くなる傾向にありますので、見落とすことなく受講していただきますようお願い申し上げます。

